

主のご復活並びに 聖霊降臨おめでとうございます



待ちに待った教区新司祭

七年ぶりに誕生!

森田健児司祭(東室蘭教会出身)、加藤鐵男助祭(釧路教会出身)の叙階式が、三月二日(春分の日)に北一条教会(司教座聖堂)にて地主敏夫司教の司式で厳かに執り行われた。平田豊彦東京神学院院長を始めとする約六〇名の司祭団と、聖堂溢れる五〇〇名を超える修道者・信徒が参会し、新司祭と新助祭の誕生を共に祝った。

地主司教は説教の中で、二人に対し、福音を述べ伝え、神の子として生活して欲しいと語り、民を聖化し、司牧し、とくに主の奉獻による神への礼拝を司式するために、司祭と助祭に聖別されるのであって、このすべての務めを神の助けによって果たし、仕えられるためではなく、仕えるために来られた良い牧者キリストにならねば、まことの弟子として生活して欲しいと語り、

= 森田新司祭と加藤新助祭の 連願にこめる思いは神様の恵み =

御礼の挨拶の中で、森田新司祭は、今までは幼い頃からの夢だった司祭になることの喜びをかみ締めていたが、今はこれからの司祭叙階の恵みの重責を感じ始めてきている旨を述べられ、これまでの物



油を塗布される森田新司祭



聖書を授かる加藤新助祭

者との約束と、司祭に叙階される者の約束を交わし、連願による諸聖人の取次ぎを願う。授け、加藤新司祭は、奥様の死がきっかけでカトリックの洗礼を受け、還暦を迎える年に助祭となり、同世代の団塊の世代の人々が第一線をリタイアする時に、神様の召命を得て司祭職を担えることの素晴らしさと感謝を述べられた。

叙階式終了後、会場を幼稚園ホールに移して、二五〇名以上の方々が参加し、楽しく賑やかな祝賀会が行われた。

森田健児新司祭は四月一日から札幌市内の月寒教会助任司祭となり、上杉神父様の指導のもと活躍されている。



来道司祭紹介

上原 博之(うへはら ひろゆき)
神父 「フランシスコ修道会」



四月一日付けで北十一条教会の助任司祭として着任。

上原神父からの挨拶

北海道へは初めての来道で、今年の聖週間前に、東京・六本木の修道院から、北十一条教会助任として着任いたしました。こちらに派遣される前は修道院付司祭で、小教区を担当するのは今回が初めてです。任務に慣れない上、司祭としての経験もわずか二年しかなく、何事につけ、いたらない所ばかりが見受けられるものと存じます。微力ながらも、いただいた奉仕職をふさわしく果たしていくことを望んでおりますので、何卒、皆様方の忌憚のないご指導、ご助言をお願い申し上げます。

【略歴】

- 一九六一年十月三日神戸市に生まれる
- 一九九二年四月二日北須磨教会にて洗礼
- 一九九七年四月一日フランシスコ修道会へ入会
- 二〇〇二年一〇月四日荘厳誓願
- 二〇〇五年三月五日聖アントニオ神学院で司祭叙階
- 二〇〇七年四月一日札幌・北十一条教会助任司祭



発行所

宗教法人カトリック札幌司教区
編集責任：教区報編集委員会
〒060-0031 札幌市中央区北1条東6丁目10
TEL: 011-241-2785 <http://www.csd.or.jp>

2007年4月教区司祭人事	2面
日韓司教交流会札幌開催とカリタス	2面
ジャパン全国大会11月札幌で	2面
教区教勢調査報告	2面
フィリピン信徒宣教者	3面
教区青少年活動報告	3・4面
カリタス家庭支援センターの一年	5面
雪の聖母園就労支援センター	5面
オプス開設「まるまる納豆」	5面
フィリピン「フランシスコ・デフ・センター」	5面
教区・各地区の行事	6面
トゥアン枢機卿の祈り	7面
ベトロ神父「祈りの園」	7面
訃報	8面
教会紹介「山鼻教会」	8面

司祭人事異動

2007年4月1日付け

- 札幌地区
・新田教会主任代行兼務
・新田教会主任代行兼務
・月寒教会主任
・森田健児師(新司祭)
・北十一条教会主任
上原博之師(六本木修道院)
苦小牧地区
・伊達教会主任兼務
・小林薫師(室蘭教会主任)

「付記」

- 1、前・伊達教会主任司祭のメナード師(メリノール宣教会)はアメリカに帰国。
2、ペラール師(パリ外国宣教会)は、四月一日付けで東京JOCに異動。
3、四月より札幌働く人の家担当司祭は谷内武雄師。

聖マリア在俗会と改称

2006年12月25日から聖母カテキスタ会が、会の実情に合わせた女子信徒の「在俗会」という会の特徴を生かした名称に改名。

マリア様自身がいろんな場面、女性として母として、世にあつて世俗に生き生を渡を送られたように、聖マリア在俗会もマリア様に倣う者として生きるために命名されました。新しい名称を覚えていただき、新しい会員を送ってくださるようお祈り下さい。

「第13回日韓司教交流会」

11月札幌市で開催

2007年11月13日 から15日

の3日間、札幌市内の会場で、日本と韓国の司教が約40名参加し、交流研修会が行われることが計画されています。日韓司教交流会は、韓国と日本で毎年交互に開催されている。それぞれが持っている情報の交換や、抱えている問題を話し合うと同時に、隣国としての司教団の親交を深めています。

一般信徒参加のミサも実施予定

期間内には、北一条教会(札幌カテドラル)で、日韓司教団の共同司式で、一般信徒も参加してのミサが行われる方向で検討されています。

「カリタス・ジャパン全国大会」も11月札幌市で開催

青少年を対象にした講演会を計画

講演会を計画

2007年11月6日 と7日にカリタス・ジャパンの全国担当者会議が開催される。日本国内の教区担当者が約20名参加予定。

会議に先立ち、4日 若しくは5日 に、担当司教の宮原司教、菊地司教、若しくは、他の講師による講演会が行われる予定。

講演会は、青少年とのやりとりをメインに、多くの皆さんが参加できるように計画中です。

教区教勢調査の報告

ご協力ありがとうございました。

(2006年1月1日~12月31日)

1. 小教区内訳

Table with columns: 教会名, 信徒数 (男, 女, 合計), 異動 (転入, 転出, 幼児洗礼, 成人洗礼, 死者, 求道者)

Table with columns: 教会名, 信徒数 (男, 女, 合計), 異動 (転入, 転出, 幼児洗礼, 成人洗礼, 死者, 求道者)

2. 人員構成

Table with columns: 宣教師合計, 所属団体, 司教, 教区司祭, パリ外国宣教会, メリノール宣教会, 教区助祭, 小計, 修道者合計, 巖律シトー会, フランシスコ会, マリア会, ラ・サール会, 小計, 修道会修練・志願者・神学生, 教区神学生, 小計

3. 施設

Table with columns: 施設名, 設置数, 人数, 施設名, 設置数, 人数

4. 婚姻

Table with columns: 婚姻件数合計, 信徒同士, 信徒と他キリスト教, 信徒と非キリスト教, 他宗教同士

皆様のご協力により、今年も札幌教区の教勢調査の数字がまとまりました。数字上ですが、教区の全体像をご覧下さい。



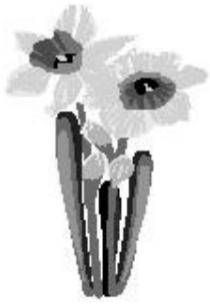
フィリピン信徒宣教師
活動開始

東京での日本語研修を終えて、2月に帰化した二名のフィリピン信徒宣教師は、本格的な宣教師活動を開始。

二名の信徒宣教師エディッサさんとメリンダさんは、うえるかむはうす(カトリック滞日外国人センター、担当司祭「マイレット・ジエムス神父」)を宣教師活動の拠点として、北海道内に在するフィリピン人の人々のケアと共生環境づくりを中心に行っていく。

また今回の活動に際し、メリノール会(フランシス・ライヤ管区長)の協力を感謝したい。

北海道の統計によると、平成十七年末時点で北海道内の外国人登録者数は一八、七九〇人で、その中でフィリピン人の登録者数は一、〇一七人で、潜在する人数を含めるとさらに多くなる。順位として、中国、韓国・朝鮮に次いで三番目に外国人登録者数が多い国となる。また、都市別の外国人登録者数では、札幌市が全体の45%の八、三八八八、函館市が六九六八、旭川市が六三〇八、帯広市が四七八八、苫小牧市が四一四八となる。



高校生フィリピン
エクスポージャー

「エクスポージャー」に学ぶ

2007年1月4日から10日までの短い期間でしたが参加者にとつて貴重な経験ができたエクスポージャーでした。今回はマニラ近くのケソンシティにあるマブティンパストル小教区への訪問です。そこでは、フィリピンの中でも貧しい地区にある教会が、住民信徒と協力して様々な問題とぶつかりながら、「神の国」の建設に取り組んでいる姿を見ることができました。

教区の青少年活動

青年沖縄
エクスポージャー

沖縄で平和を考える
鳥居明子

これまで「平和」をテーマに、アジア各地を旅してきましたが、自分たちの暮らす国の現実、足元をしつかり見つめるために、一度は沖縄を訪ねたいと思っていました。

3月2、8日、与那原のクララ修道院を拠点に、お母さんのように細やかに一人一人を気づかせてくださるシスターたちに見守られて行なわれました。平和ガイドの山田圭吾氏は早朝から深夜まで、ていねいに、楽しく、時には交流会の買出しにまで走ってくださいました。多く



=有刺鉄線のある辺野古の浜辺=

ある参加者からの感想を紹介すると、「今回のフィリピンエクスポージャーを通して学んだことは、人のあたたかさ」です。特にホストファミリーの家族のあたたかさで、僕のお世話になったファミリーは4人の子供がいました。その家族の絆がとても素晴らしいと感じました。最初はフィリピンに着いてすぐに、排気ガスやゴミの臭いがすくて、日本に早く帰りたいと思いましたが、子供達の笑顔と目の輝きは僕の気持ちを癒してくれて、不思議な気持ちにしてくれました。そのような日々は、早く日本に帰りたい気持ちからもう少しここで暮らしたいという気持ちに変化していま



=クララ修道院にて=

した。フィリピンはまだまだ整備されずにゴミの山もあつたけれど、人々は明るく優しく、あたたかかったのが印象的で、英語は話すことはできなかったけれど、ジェスチャーと少しの単語で心は通じていきました。もう一つ、僕は今まで俱知安教会で同年代の友達がいなかったたので、今回、高校の友人とは違う他の教会の友人ができたことはとても嬉しかったです。上杉神父様やリーダーの方々のおかげで、いろいろなことを体験し、これからの自分にとって貴重な経験となりました。無事に日本に帰って来られたことに感謝しています。ありがとうございました。」

の親戚な沖縄の方々との出会いがありました。1、沖縄戦の経験を知る。沖縄中どこへ行っても、沖縄戦の爪あとのないところはありませんでした。激戦地だった南部や首里城周辺、宜野湾市の嘉数高台はもろろん、たくさんの自然壕(ガマ)が残されています。私たちが懐中電灯を手にガマの一つを見学しました。狭い穴の中を降りて行くと、奥の方に軍人、重症患者のベッド、ところどころに便所を示す看板がありました。そして危険率の

高い出入口に近づくにつれ、住民、そして一番手前が韓国人慰安婦のスペースとなっていました。途中、懐中電灯を消すと、すぐ隣の人も見えないほどの真暗闇。暗闇でヌルヌルするものが手に触れた。よく見るとそれはうじ虫。いつの間にか隣にいた人が死に、その体から湧いてきた」という体験を聞きました。最後の激戦地摩文仁の丘では砲撃や火炎放射器で陸地の全ての物が焼き払われ、住民たちは丸裸になった丘の上を逃げ惑ったそうです。

わずかに残されたコンクリート製の建造物には四方に爆弾でやられた穴や弾痕が無数に見られました。今でも不発弾が発見されることがあるそうです。2、沖縄の基地問題を自分の目で確かめる。沖縄本島の2割が米軍基地といわれています。しかしそれだけではありません。沖縄の空と海も、米軍の演習場なのです。私たちの滞在先、与那原に基地はありませんが、1日に何度も戦闘機が爆音を響かせて頭上を飛んでいました。その騒音で年間100時間以上も授業が中断することがあるそうです。3年前の夏、この基地に隣接する沖縄国際大学に米軍ヘリが墜落しました。当時周辺は米軍によって立ち入り禁止となり、防毒マスクを付けた米兵らによって土まて入れ替えられたそうです。那覇市を抜け、島の西側を北上すると、基地のフェンスがどこまでも続いています。基地の中には緑の芝に覆われた住宅が見えます。日本の思いやり予算で立てられた米兵家族のためのマンション、ゴルフ場。そして嘉手納基地の1つ4億円の格納庫はざっと見ても15以上ありました。気がつくとも国道の両側にフェンスが立っていて、基地の中を通り抜けていることがわかりました。山田さんに言われてよく見ると、フェンスの上部は有刺鉄線で、私たちの方向に向かって折れ曲がっています。圧迫感を感じました。「基地の中に沖縄が

ある」と言うのはこういうことなのだと思えました。海上へリポート建設問題に揺れる辺野古も訪ねました。危険で古くなった普天間基地を東海岸の弾薬庫を持つ基地のすぐ横の辺野古海上に移設するという計画です。それがどんなリスクを負っているか、住民たちが8年も反対し続け、その内3年近く海岸で座り込みを続けています。浜へ出ると監視カメラと力ミソリの歯の付いたぐるぐる巻きの有刺鉄線が砂浜から海へ向かって張られ、民間地と基地とを隔てていました。反対運動のリーダーは優しそうな白髪の老人。今も全国から支援者が集まっています。3、沖縄の青年と友だちになる。到着の翌日、エマオユースセンター(EYC)で、沖縄教区の青年たちと交流会をしました。短時間でしたが、互いの自己紹介、沖縄の紹介、教区と青年会活動の紹介、クイズ、そして沖縄特産のお菓子やジュースをこ馳走になり、青年たちはあつという間に互いの距離を縮めていきました。1週間の旅の最終日には、クララ修道院のシスターたちが中庭でパーベキューを準備して下さり、再びたくさんのEYCの青年たちが集まってくれました。そして夜中まで別れを惜しみ、今度は北海道で会おう!と声を掛け合いました。この旅を通して、沖縄戦の語り部たちや、今を生きている沖縄の人々から、印象に残る言葉をいただきました。

知らないことが余りにもたくさんあることにショックを受けました。沖縄の人々は、沖縄戦以来ずっと、戦場と隣り合わせに暮らしています。住民の暮らしより軍事優先。そのために今も苦痛や不安の日々を過ごしている人々がいる現実には、無関心だった自分を反省しました。

今、参加者たちは責任を感じはじめ、自分たちにできることについて考えをめぐらしています。手始めに、帰ってからすでに3回の報告会を行いました。報告書も準備中で、是非多くの方に読んでいただきたいと願っています。

最後に、エクスポージャーをご支援くださる教区の皆さまに心からの感謝を申し上げます。

**ネットワーク
ミーティング(NWM)
全国大会が開催**

「NWM in 横浜」1000人集結
北26条教会 深澤 素英

まず始めに「NWM」について知らない方が多くいると思いますので、この集いの発足に至るまでの経緯と目的を説明したいと思います。

1998年カトリック中央協議会の青少年委員会が解散するにあたり、全国のカトリック青年の間の情報交換や支援の場がなくなりしました。しかしそんな最中でも青年の全国的な交流や協力が絶えることはなく、このような現状を受けて、彼らの活

動を支援し共に歩んでゆける会の必要性を感じた数名の有志が集まり2000年2月五教区の賛同を得て「カトリック青年連絡協議会」が発足しました。2003年2月6日には、「カトリック青年連絡協議会」は日本カトリック司教協議会より公認団体として認可を受けました。その後新たな教区からの賛同も受け、現在に至っています。

この「カトリック青年連絡協議会」の目的は、教区の枠を超えた青年活動に対して、必要とされる支援に応じながら、青年活動を促進してゆくことです。その為に、青年達に関わり様々な形で応援してくれている司教修道士、信徒の皆さんと、青年とが一緒に話し合い、考え、共に歩むことができるような形の

と等わがちあひ、交流し、いろいろな地域の青年や活動している青年と出会い情報交換をすることです。



会を目指しています。話し合いで自由に意見を述べ、且つ、交流をもつことができる場とする為に、会議としての「連絡協議会」、そして、交流の場としての「ネットワークミーティング」の「NWM」の二つがこの会から発足しました。この会の目的は、今かかえている問題や信仰のこ

「カトリック青年連絡協議会」は連絡協議会の開催に合わせてNWMの場を提供します。NWM実行委員会を毎回立ち上げそのメンバーに協議会のメンバーも加わり責任をもって支えます。カトリック青年連絡協議会は、そこで交換されたさまざまなこ

と、問題点を、これからのカトリック青年のためにどう生かしていくかを考えていきます。またそこで生まれた新しい動きをバックアップしていきます。以上が「NWM」の発足に至るまでの経緯と目的の説明です。私

は今回が二度目です。この会の存在を知り実際に参加してみても感じた事は、青年自らの意思によって会を発足し、さらに継続して受け継いでいるという青年達のパワーと意識です。会を運営していく上では様々な話し合いや事務作業、また会の運営資金も必要になりますが、それらの負担を負ってでも必要として、青年達は毎年一つの場所

に集結しています。そこまでもなくても必要とされているこの会とは一体何なんだろう。恐らく、集まることには大きな意味があるように感じます。情報社会である現在、インターネットや電話で青年同士が自由に連絡をとることは十分可能ですが、お互いの顔が見えない中でやりとりはどこか頼りなく、伝え

たい事が本当に伝わっているか不安になることがあります。お互いが面と向かって直接話し合い、ふれ合い、同じ体験を通して共感できる何かを持つ事で、人間同士の絆は深まっていくのだと思います。また、大勢が集まる場には新しい出会いもあります。この出会いがあるからこそ今の私も存在しています。出会いと出会いがいくつも重なり多



よって、視野や広がり、考え方が深くなります。楽しい事もあれば、悲しい事もあり、気付けられる事も、考えさせられる事も、悩む事もあります。人が集まった場、そこにはただ人々がいるだけではなく、人を成長させてくれる何か大きな恵みがあると感じます。そういう場を青年は求め、また仲間にも伝えたいとそう感じるから、この「NWM」が存在しているのだと思います。私もこのNWMを知った一人の青年として、多くの人々に会の存在とそこから得られる恵みを知ってもらえるような動きができればと感じます。

今年3月のグループに分かれました。3泊4日のうちに10のセッションがあり、そのつと与えられるテーマについての話し合いを中心に行なわれます。自分について、家族や学校について、信仰について話し合い、かなり濃密な話し合いが行なわれます。ここでなければ学校でも教会でも打ち明ける機会のなかなかないことを、本音で話し合うことができます。あるときは話が行き詰まり、倦怠感がみ

**カトリック高校生会
練成会開催**

森田 健児神父

3月27日から29日まで、北26条教会にて高校生の練成会がありました。全道から約20名の高校生が集まり、「みとめ合っ心輝かしい10代のステップアップ」をテーマに、分かち合いの有意義な4日間を共に過ごしました。高校生の執行部が計画・運営を進め、上杉神父、森田神父と二人の神学生、そしてこの練成会のOBである数人の青年リーダーの協力により、また26条教会のご婦人方の協力によって行なわれました。

今回は3つのグループに分かれました。3泊4日のうちに10のセッションがあり、そのつと与えられるテーマについての話し合いを中心に行なわれます。自分について、家族や学校について、信仰について話し合い、かなり濃密な話し合いが行なわれます。ここでなければ学校でも教会でも打ち明ける機会のなかなかないことを、本音で話し合うことができます。あるときは話が行き詰まり、倦怠感がみ



ぎることがありますが、そういったものを乗り越えながら、次第に他者へ関心を持つことを覚え、話し合いに協力していくことを覚え、自分の殻を打ち破ってゆくように教えられてゆきます。そしてそれら乗り越えながら、話は深いレベルに進み、お互いの信頼感が生まれてきます。

活動が中心となりやすい若い信者の集まりの中で、カトリックの練成会は異色ではないでしょうか。缶詰状態の4日間というのは参加者にとってもリーダーにとってもつらいことがあります。いつも寝不足になります。しかしそれでも毎年同じように続けられ、参加者が再びやってくるのは、ここで得るものが大きく、心を開きあう感動の体験がここで得られるからでしょう。ここで一生の友達が出来るといふ話もよく聞きます。それほど、心を開いて、若い信仰者たちが対話することの出来る場ではないかと思えます。

3日目の夜にテゼ風の祈りの時間を持ち、最終日にミサで締めくくりました。参加者はここで体験したこと、力を得て、また毎日の生活に生かしてゆくことでしょう。執行部と高校3年生は力を出し尽くして卒業です。この難しい時代、とりわけ信仰者にとっても生きづらい時代に、神が彼らの歩む道の上に力強い助けと祝福を与えてくださいますように。

カリタス家庭 支援センター

相談総数849件(548人)
前年度の655件に比べ28%増

対象地域は北海道全域、東京、秋田、
埼玉、鹿児島等広域化

2006年度は、教区から専門の相談員2名が派遣され、例年と同様に多くの皆様からご支援・ご協力を頂き、相談・支援活動を中心に活動をしてきました。教会関係と他機関からの紹介者が多く、再度相談に来られる方も増えています。

そして、相談から派生するニーズへの対応として、役所、病院、地域保健センター、プロテスタントの方、MAC、JOC、みなずき会等と地域の支援ネットワークを構築。生活保護費、障害年金の受給、就労支援など教派を超え、小教区を超え、地域社会の人々と共に、生活を支える実践活動を行い、相談の中から生まれた「ともに安らぎの時間を過ごす」ことの必要性から、「イエズス様と出会う集い」「絵手紙の集い」は利用者の方に喜ばれています。

また、生命尊重運動への協力として「エンブリオ基金」のカトリック教会の集約窓口となり、エンブリオ基金センターへ7、330口送金。

当センターの活動が、地域の中で切実な生活問題を抱える方々

を支援する教会の社会福祉活動として今後も続けていきますように、皆様のご理解・ご協力・ご支援をお願いします。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新規相談(人)	16	31	42	32	55	47	44	67	44	62	52	56	548
継続相談	15	29	70	34	27	20	14	26	9	20	19	18	301
相談件数	31	60	112	66	82	67	58	93	53	82	71	74	849
終結	14	27	36	25	59	51	40	60	43	55	48	50	508
次月継続	17	33	76	41	23	16	18	33	10	27	23	24	341
総数(件)	31	60	112	66	82	67	71	93	63	82	71	74	849
カトリック(件)	16	31	58	33	44	26	13	19	12	13	19	21	305
一般(件)	15	29	54	33	38	41	45	74	41	69	52	53	544

雪の聖母園 就労支援センターオプス開設

雪の聖母園(理事 長 地主敬夫司教)は、月形町の閉校した小学校の有効活用のため、平成十八年にスタートした障がい者自立支援法の中の「地域生活支援」「就労支援」という課題解決のため、就労支援センターオプスを平成十八年十月にオープン。

当センターは、雪の聖母園利用者の自立訓練や就労支援の拠点となる作業所であるとともに、月形町の良質な農産物(大豆)を活用した食品加工(まるまる納豆製造)する授産活動施設としても注目されている。

「まるまる納豆」が、おいしいと人気

「月形にこの品あり」

中川センター長は、「地域の皆様と関係各位のご理解とご協力により、オプスを開所することが出来ました。月形町にも名産はたくさんありますが、月形にあれば、この納豆が買えると思っただけのよくな。月形にこの品あり」を目指して取組んでいき、地場産業にも貢献していきたいと考えています。これからも、研究を重ねていきます。」と語っている。



納豆作りは、職員も利用者も初めてのことで、大豆の蒸す時間によって硬軟が決まり食感が違ってくるそうである。研究を重ねて今以上においしい納豆が出来ることを期待したい。現在、大口配達分で週間2千2百6十食、法人運営のアンテナショップでの販売を加えると生産が追

いつかない状況とのことである。今後は、週に60kgの大豆を30kgずつ2回に分けて製造を行い、2千4百食分の生産ラインを確立することが当面の目標となる。

作業は、午前9時から午後4時迄(正午から午後1時は昼休み)で、朝晩マイクロボスで30人の利用者が通い作業を行っ

佐藤宝倉神父 フィリピンで活躍 「アシジの聖フランシスコ・デフ・センター」

当会は、2003年1月1日に創立され、アシジの聖フランシスコの精神を土台に置くろう者と聴者の共同体で、フィリピン国の方におけるろう教育の向上と、ろう者の地位の高揚を目指す活動を行っています。

現在、会員9名(ろう者5名、聴者4名)、志願者6名(ろう者5名、聴者1名)、協力スタッフ4名(ろう者2名、聴者2名)。

具体的活動

地方のろう者リーダーの養成

ろう教師の養成

ろう者教師助手の派遣

当センターでは、他にも「手すきはがき」「リサイクル石鹸」「EMボカシ」「シルクスクリーン印刷」などを行っている。

センターの職員は8名で、地域実習やアンテナショップでの販売も担当しており、人員不足のため現時点で職員を1名募集中である。また、リサイクル石鹸(性能抜群)の販路拡大や、シルク印刷の顧客獲得が現在の重点目標とのことである。

教会や学校等で協力可能とお考えの方は、就労支援センターオプス(中川所長)まで連絡を。電話(0126)53-3338 E-mail: seiboen.opus@mkskne.tne.jp

デフセンターへの支援金は次の口座まで

- 旭川信用金庫 札幌支店
- 普通預金 0171426
- 口座名 「フ国未就学ろう児援助基金」
- 代表荒木元治
- ぱ・る・る(郵便局)
- 19090-39877651
- 口座名 「フィリピンろう者にろう教育を与える会」代表荒木元治

フィリピン手話インストラクターの養成・派遣

手話通訳者の養成・派遣

聴者教師の養成

ろう学校への聴者教師派遣

2002年7月にフィリピンを訪れて以来、ペドロ・パウティスタのフランシスコ会管区の特別司牧事務局のコーディネーターと数回話し合いの後、2002年8月19日にFDM(フランシスコ会ろう者司牧)の計画を提出しました。この提案は同日管区長によって承認されました。FDMの元にFDC(フランシスコ・デフ・センター)を三つによって運営されることを目指すと、FDF(フランシスコ・デフ・ファンデーション)FDC活動のための資金を調達する機関)を設置しました。その後、フィリピン国内のろう者の状況を視察して回り、どのような内容にすべきか検討し現在に至っています。

= 教区・各地区の行事予定 =

教区	5月28日(月) 29日(火) 6月29日(木) 7月2日(月) 4日(水)	教区司祭月例会 聖ペトロ聖パウロ祝い(予定) 全道司祭大会(予定)	(花川マリア院)
札幌地区	5月9日(水) 26日(土) 27日(日) 6月6日(水) 24日(日) 7月4日(水) 21日(土) 22日(日) 22日(日)	地区宣司評事務局会議 要理講座3 地区宣司評第1回評議会 地区宣司評事務局会議 要理講座4 地区宣司評事務局会議 要理講座5 地区宣司評第2回評議会	(ベネディクトハウス) (月寒教会) (山鼻教会) (ベネディクトハウス) (花川セミナーハウス) (ベネディクトハウス) (花川セミナーハウス) (北十一条教会)
函館地区	5月13日(日) 7月27日(金) 29日(日)	地区宣司評総会 地区合同夏季学校	(宮前町教会)
旭川地区	5月7日(月) 8日(火) 6月16日(水) 17日(木) 27日(日) 6月6日(水) 7日(木) 24日(日) 7月22日(日) 29日(日)	巡礼 旭川地区司祭会議 旭川市内合同ミサ 旭川地区司祭会議 旭川市内合同ミサ 旭川市内合同ミサ 旭川市内合同ミサ	(幕別カルメル会・帯広教会) (旭川5条教会) (旭川5条教会) (旭川5条教会) (旭川5条教会)
苫小牧地区	5月20日(日)	苫小牧地区連絡協議会	(新富町聖堂)
北見地区	5月13日(日) 7月上旬 下旬	地区宣司評評議会 地区合同野外ミサ 教会学校夏季キャンプ YLSサマーキャンプ	(遠軽教会) (YMCAチミケツップ湖 キャンプ場)

虹の会研修会報告

2006年度虹の会(視聴者と共に歩む会)研修会が、石狩市花川マリア院で開催される。十月二日から二日にわたり、視覚障がい者9名とボランティア会員22名が参加。講師にお迎えしたのは、月寒教会主任司祭の上杉神父様で、講話のテーマは、「小さくされたもの(アナビーム)から学ぶこと」として2回行われ、ボランティアにあたる者として貴重な話を拝聴しました。一日目午後、視覚障がい者にも誰が参加しているかが分かるように自己紹介が行われた。次いでアイマスクの実演を行い、障がい者協議会からの「目の不自由な人を安全に誘導するため」の資料を配布し、参考に役立てています。実演では視覚障がい者を街頭や会議室、部屋の途中で案内する時の注意すべきこと(例えば、椅子に腰掛ける場

ボーイスカウト黙想会



カブ隊・6名(小2、4)が、1月5日、7日(2泊3日)に黙想会。黙想会のテーマは、「これからいつも一緒に」です。テーマの説明は、人は一人では何の力も無く、弱いもので、でも糸と同じ、力を合わせると強く

合の位置の示し方。テーブルにおかれた湯飲みや食器などの位置を説明する時、時計の針になぞらえてその位置を示すことなどを具体的に伝えることが大切であると説明された。上杉神父様の講話は、雪の聖母園で経験されたことから学ばれた貴重な体験談でした。最初の頃は園生との付き合いにも戸惑ったが、慣れるうちに彼らとの接し方が分かり、気持ちも楽になったことなどを語られた。拝聴して感じたことは、心にもないことをしなさい、心にもないことが得意であり、小ざかし互いに嘘がないこと。嘘を見抜くことが得意であり、小ざかしい知恵で効率よく立ち回る世間の方がむしろ問題があるかもしれないと感じました。「人の悪口は伝わらない。ミ

スが目についても原因を探さない。人を攻めることがない。」など、障害の程度がうまうま行われ、神様は誰も無用の人を置いていない。私たちも多くの人の達の中で気をつけなければならぬことがあるのではないかと考えさせられた。2回目の講話では、神学校のモテラトルの時のことなど。ローマへ典礼の勉強に派遣され、イタリア語の勉強で苦労された話には胸が痛みました。東京の神学校への赴任時は、ボランティアも経験されたよつでした。身障者が車椅子で公園を一周散策する手伝いをする依頼です。6ヶ月間誰も世話をしてくれる人がいなかったとのこと。社会的弱者とされる方々に気配りすることの重要さを優しい語り口で話され、参加者は感銘を受けていました。最後はミサです。朗読、共同祈願も視覚障がい者によって行われ、派遣で締めくくられました。が、帰りのバスの中でも更にお話をお聞きしたと参加者の表情は満足気でした。

虹の会 谷口 正

なれるよ。それは、一緒にという言葉の説明から始まりました。セツシオンは、自分のために誰と一緒にしたか? こと達の答えは、ママ、パパ、お兄ちゃん、神さま。セツシオンは、赤ちゃんの時に、誰と一緒に? 憶えていなくても、聞いた事あるでしょ? こと達の答えは、看護婦さん、お医者さん、おばあちゃん、おじいちゃん。セツシオンは、そのあと、「今までに誰と一緒に? 小さい時に: 幼稚園の時に: 1年生の時から: こと達の答えは、家族・友達、ねこ、ハムスター、神さま。セツシオンは、これから、離れていても、心の中で誰と一緒に居たい? と続いて、1つのセツシオンの説明は10分位、黙想の時間は2

分間、考えて記入する時間は15分位、おやつ・ゲーム自由時間を入れて、2時間後にセツシオンの発表という形で進みました。発表は自分が話した後で、人の話を聞いて、話したくなったら付け足してもいいよと、穏やかに進められました。セツシオンの目的は神さまを知ることです。自分の将来は分からないけど神さまは分かっているよ。神さまはいつも一緒にだとお話をしました。最後にセツシオンの中で思った人、「これからいつも一緒にいたい」と思う人に手紙を書いて、カブハウスの祭壇に置いて、皆でお祈りをしました。祭壇に置かれた手紙には、たくさんの絵・大好きな人たちへのメッセージ・神さまへの質問が書かれていました。

心への響き



経験が教えてくれました
 主は 主の仕事 をわたしにくださ
 いました
 貴い仕事 へりくだった仕事
 大きな仕事 普通の仕事

小教区の司牧 若者の司牧 学校の司牧
 芸術の司牧 家庭の司牧 青年の司牧 労
 働者の司牧 マスコミの司牧

わたしは 情熱のすべてを
 自分にできる すべてのことを
 これらの仕事に 注ぎ込みました
 自分の命をさえ 惜しみませんでした

このように 熱心に働いていると自負し
 ていたとき
 わたしは 多くの失敗をしました
 思知らずの人々のため 非協力的な人々
 のため

友人の誤解のため 長上の助けが得られ
 ないため
 病気のため 手段を持たないために・・・
 わたしは 人々から絶賛され 憧れられ
 成功の頂点に 立っていた時

突然に 転勤を命じられ
 新たな任務に就かなければなりません
 した
 わたしは 闇の中に
 突き落とされたかのようでした
 主よ どうして
 わたしを お見捨てになったのですか
 わたしは 主の仕事 を

手放したくありません
 教会建築を終えなければ
 活動を組織化しなければ
 なぜ 人々は 主の仕事 を
 壊すのでしょうか
 すばらしい 主の仕事 を
 どうして 支援しないのでしょうか

この二つは よく混同されるといふことを

しかし 祭壇の前で
 ご聖体の傍らで
 主が わたしを教え諭されます
 「わたしの 仕事 ではなく
 わたしに従いなさい」
 「わたしが望むとき わたしの 仕事
 を
 わたしの手にゆだねなさい」

誰を用いるか それは主のみ旨です
 主が配慮してください
 主の配慮は わたしの配慮より何万倍も
 まさる

ただ 主のみを選びなさい
 (1985年ルルドの聖母の記念日に
 ハノイの独房にて)

『四つ目のパン』の祈り
 聖体の秘跡 わたしの唯一の力
 主イエス
 世の終わりまで
 あなたは ミサをささげつつけておられ
 ます

あなたは 司祭の手をとおして
 全世界でささげられるミサの中で
 神秘に満ちて そこにともにおられます
 わたしは 典礼の規則どおりに ミサを
 ささげました
 否 それでは足りないのです
 かつて 主は 今日の典礼規則に従うの
 ではなく
 熱心に 心をこめて ミサをささげられ
 ました

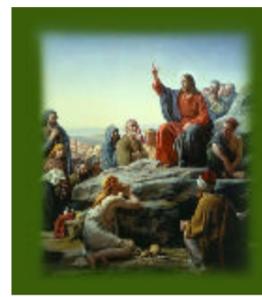
受難のとき その心で ことに十字架の
 上で
 肉体の痛み ことに心の苦しみの中で
 死に至るまで
 御父への愛と従順を 示されました
 十字架上での 屈辱的な死

それは 奴隷に与えられた刑罰
 主はすべての人に見捨てられ御父に尋ね
 られました「わが神 なぜ わたしをお
 見捨てになったのですか」
 わたしたちも 主と同じミサを
 ささげることができるようになってくださ
 い
 もし わたしたちが 自分自身をささげ
 焼き尽くすいけにえとしないならば
 もし わたしたちの人生が
 飢えや渇きを耐え忍ばないならば
 辱められ 苦しめられ 頬を打たれ
 茨の冠をかぶせられ 十字架を担わされ
 鞭打たれ 縛られ ひざまずかされ
 釘打たれ いのちを絶たれ 他人の墓に
 葬られないならば
 わたしは反省し 悔い改め 回心しなけ
 ればなりません
 自らを変え 脱皮しなければなりません
 わたしは イエスのように ミサをささ
 げたいからです

もし わたしが まだ恐れているならば
 主イエスの通られた道を 避けているな
 らば
 どんなに忠実に典礼に従っても
 どんなに厳かに行っても
 わたしは 主の心で
 いけにえをささげたことにはならないで
 しょう
 (1976年 ロザリオの聖母の記念
 日にフー・カイン強制収容所の独房に
 て)

ペトロ神父「祈りの園」 電話サービス

札幌局の電話番号が変更



札幌教区内には、

札幌局 〇一一(七七二)六七六

八函館局 〇一三八(四二)四四

一 釧路局 〇一五四(五一)三

五二二の3局があります。

三月の各局へのアクセス数は、

札幌470件、函館247件

釧路151件。全体では、イン

ターネット1千077件を含め

て1万5千431件。

3分間の通話料金のみで、毎

日ペトロ神父様の違つ話が24

時間いつでも聞けることができま

す。

また、「祈りの園」ホームページ

(携帯電話用もあります)か

からも聞くことができます。そし

て、じっくり聞きたい人には、

一ヶ月分をCDにまとめて送っ

てくれるサービス(一千元/月

送料込)もあります。詳しくは、

「祈りの園」へお問合せするか、

ホームページをご覧ください。

【祈りの園事務所】

〒227-0044 横浜市青葉区も

えぎ野6-9 リバティビルズ

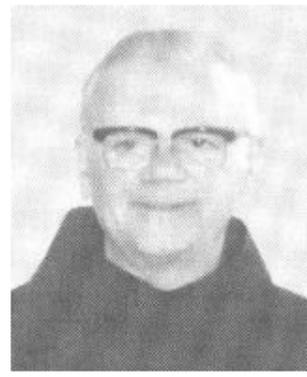
一〇一

Tel/Fax 045-974-0640

http://www.inori-no-sono.com

訃報

ご冥福をお祈りいたします



フランシスコ会司祭
ニコラオ・ブレッシシエル神父



教区司祭
フランシスコ・ザビエル 浅沼 正三神父

二〇〇七年一月六日(土)午前
十時十八分に肺炎のため帰天。
葬儀ミサ・告別式は、北十一条
教会で午前十時。ベト口地主敏
夫司教や中川博道カドメル会管
区長、湯沢民夫フランシスコ会
管区長を始めとしたフランシス
コ会司祭、教区司祭の共同司式
で厳かに執り行われた。
戦後初めて北海道に宣教に來ら
れた司祭の一人であり、多くの
方々を洗礼に導き、そして信徒
を司祭・修道者へと導いた功績
は大きい。

二〇〇七年四月二日(日)午
前八時四十五分に肺がんによる肺
炎のため帰天。
お通夜、葬儀ミサ・告別式は、
カテドラルが工事中のため、出
身教会の北十一条教会にて、地
主 敏夫司教の主司式で、教区
内の司祭団、修道者、信徒が参
列し執り行われた。説教の中で
地主司教は、司祭職六九年の歴
史を語るにはあまりにも時間が
少なく、その職責を偲んでいた。

- 【略歴】
- 1921年8月5日 生まれる
 - 1952年7月27日 司祭叙階
 - 1953年7月23日 来日
 - 1955年4月 来道
 - 1956年9月 名寄主任
 - 1960年5月 美幌主任
 - 1967年9月 大町主任
 - 1973年6月 枝幸主任
 - 1978年4月 稚内主任
 - 1981年4月 枝幸主任
 - 1985年5月 富良野主任
 - 旭川市内の病院で加療後に月形藤の園へ
 - 2007年1月6日 帰天
 - 享年 85歳



- 【略歴】
- 1914年3月13日 福島県で生まれる
 - 1938年3月21日 司祭叙階、小樽富岡教会助任
 - 1939年7月6年 俱知安教会、旭川教会、稚内教



会、北見教会、山鼻教会、富岡
教会、北1条教会主任、聖園幼
稚園長を歴任
1977年98年

真駒内教会主任、真駒内聖母幼
稚園長
1998年

真駒内教会協力司祭
2006年1月12日

新札幌パウロ病院で病氣加療の
ため入院
2006年4月21日

月形藤の園へ入所
2006年4月22日 帰天

享年93歳
司祭生活 69年

聖マリア在俗会(旧聖母カテ
キスタ会)
マリア・テクラ 南 幸子 姉妹

二〇〇七年二月十八日(日)午
後二時三六分に、気管拡張症急
性呼吸不全のため国立札幌がん
センターにて帰天。

所属する月寒教会で、上杉神父
の司式で、聖堂溢れる多くの方々
が参列し、二〇日にお通夜、二
一日に葬儀ミサ・告別式が執り
行われ、別れを偲びました。南
先生は、長年、岩見沢カトリッ
クセンターの運営に携わり、未
信者の方々と多く接し、イエ
スの心を伝え続けた。そしてセ
ンター閉所後も、教会学校や各
委員会活躍されており、入院
する前日まで宣教活動に励んで
いました。

教会紹介

山鼻教会



生い立ち

1942年(大正13年)9月
4日、それは、ちょうど初金
曜日の前日。北1条教会の副
司牧ティモテオ・ルツベル神
父が、病気の信徒の告悔を聞
くために山鼻地区に向かわれ
ていたときのことでした。雷
が伴うにわか雨に会われ、木
立の下で雨宿りをされたとき、
落雷があり、胸の懐中時計に
感電、ロザリオを手にしたま
ま帰らぬ人となったといっ
たにいたましい事件がありま
した。

これを機に初代札幌教区長ウエ
ンセスラウス・キノルド司教
は、山鼻地区に教会を建設し
たいという構想実現のため、
幼きイエススの聖テレジアの
取次ぎを願い、九日間の祈り
をし、1930年(昭和5年)
8月3日、仮聖堂・仮伝道館
工事が竣工し献堂式がもたれ
たのです。初代主任司祭はウ
ヴァルト・シエツケ神父でし
た。

このようにしてスタートした
山鼻教会は、2005年(平

成17年)10月1日、当教会の
保護の聖人である聖テレジア
の祝日に地主司教司式で75周
年を記念するミサが捧げられ
たのでした。

司牧のこころ

ウヴァルト・シエツケ神父か
ら数えて13代目にあたる谷内
武雄神父は、2005年4月
に北見地区から着任。200
7年3月21日に司祭叙階46年
を迎えられ、1月27日には満
76歳になりましたが、真駒内
教会の主任を兼務されるなど
司牧の道を歩まれております。
着任から2年、独特の語り口
から訴えかけておられること
は、「隣人を寂しい境遇、孤
独な状況においてはいけない。
その人の中にキリストをみて
今、私は何をしなければなら
ないかを考えなさい。小共同
体については、キリシタン時
代の組、親の精神に学びなさ
い。不完全なものを内包しな
がらも歩み続けなさい。」と
いうことだと受け取っております。

山鼻のすがた

100名程の信徒数でスター
トした山鼻教会は、750名
を超える規模になりました。
2000年5月、それまで十
分に機能していると思われて
いた組織でしたが、これから
の地区、教区の将来像に対応
できないとの考えから、幾多
の議論を重ね次のように編成
替えしました。

- 運営委員会
- * 主任司祭
 - * 運営委員(3名)
 - * 総務部・典礼部・福祉部・
財政部・養成部・育成部・
施設部・広報部
 - * 3ブロック

しかし、一昨年あたりから当
初の目的を十分に達成できて
いないこと、組織が機能し
ない弊害が出てきたため、見
直しを進めている状況です。
見直しを進める中、「こうあり
たい山鼻教会のすがた」につ
いて、信徒の皆さんがどのよ
うな思いを抱いているかをア
ンケートで確認しました。集
められた意見を 霊的課題
共同体との関わり 高齢者・
病人 開かれた教会に分類し、
「司牧のこころ」に沿った組
織を実現させるべく模索中
です。

こころみ

札幌地区宣教司牧評議会では、
韓国から「姜司教」、菊地司
教を招くなど小共同体につ
いて考えてきましたが、一昨年
から山鼻教会では冬季節を除
いて毎月、数箇所で「家庭集
会」を、月の第3主日の集会
祭儀後にその日の福音を分か
ち合う「小さな分かち合い」
の場を提供してきました。決
して多くの方の共感を得てい
ない部分もありますが、交わ
りを通して共同体が形成され
ていくことを信じ、歩みなが
ら旅する教会員の一員である
ことを自覚していくことがで
ければ幸いです。

お知らせ

毎週水曜日午後6時30分から
8時まで、パウロ六世著「福
音宣教」を学んでいます。文
章の解釈・学びが中心ですが、
楽しいのは司祭、信徒の垣根
をはずした信仰全般にわたる
意見交換があることです。ぜ
ひ参加をお勧めします。
(運営委員長 木村一元)